



海の生きものの

つかまえたら どうする？

文・杉本 幹 写真・松橋利光

絵・こばようこ

いそ いわば
磯の岩場で

フナムシ カニ のなかま

見つけた!

磯や、磯に近い林を好んでくらしている海の生きものたちがいます。こうした場所にいる生きものは、ふだんは海に入らずに活動していたり、潮が引いたときには水から出ていたりするので、見つけやすいものが多いです。海からの距離によって、種類も変わってくるので観察してみましょう。

林の中

ベンケイガニ



海岸近くの林では、土にあいた穴や岩のすき間をのぞいてみましょう。カニがかくれているかもしれません。

ヒライソガニ



茶から出る苔の下には、じっとかかっている生きものもいます。石を持ちあげると、ヒライソガニなどがいっせいに逃げだします。

石の下

いわば 岩場

カメノテ



フナムシ

潮から少しは離れた、完全に茶から出ている苔の上にもたくさんのがかっています。さがしてみましょう。

いそ

磯
海岸線と陸地のあいだにある岩場の多い場所を「磯」といいます。磯は、海にしずんだり、陸地になったりするので、潮の満ち干ちによって、見られる生きものも変わります。

クロフジツボ



フナムシ

見つけたよ!

銅いやすさ ☆☆☆

黄色い星が多いほど銅いやすさよ!

体の大きさ



(口先からおしりまで)

アカテガニ ☆☆☆

甲冑の長さ・3cmくらい

名前のように背は赤みをもちいて、ふだんは海に近い山にすんでいます。夏の大潮のころ、海側になると、メスは海岸におりてきて、たくさんのごとも(卵生)を海に産みます。



フナムシ ☆☆☆

大きさ・5cmくらい

海苔の岩などに、たくさん集って生活しています。ダンゴムシのなかまで、成長して大きくなります。成長まで互角の壳がいやちあけられた後などを食べる海苔のそうじ屋さんです。



ヒライソガニ ☆☆☆

甲冑の長さ・3cmくらい

磯の岩のすき間や、石の下にかくれています。甲冑は甲冑は色もようがそれぞれちがいが、なかには、もようが入る殻をじっくりに見るものもいて、ニュースになったこともあります。

アラレタマケビ ☆☆☆

殻の長さ・0.6cmくらい

波しぶきがきりきりかかるところの、潮からいっぽん近い岩場にくっついてます。茶がきらいで、ふだんは海に入らずに岩についた藻などを食べています。磯に入るの、茶の産卵のときだけです。



カメノテ ☆☆☆

大きさ・5cmくらい

「カメの手」に似た形をした、エビやカニに近いなかま(甲冑類)ですが、岩にくっついていて移動はできません。潮が満ちてくると、殻の尻から産卵(産卵)を出して、プランクトンをつかまえます。

オカヤドカリ ☆☆☆

大きさ・7cmくらい

海岸や磯の岩場の岩にすむヤドカリで、白茶で小笠原や岩などで見ることが出来ます。産卵は岩のすき間の下にたくれ、後に海岸や海に近い岩のすき間をさがまわります。



潮だまりで エビ タコ ヒトデ

イソギンチャク のなかま 見つけた!

磯は、岩がたくさんある岩場に波が打ちよせ、場所によって、潮が満ちると海になったり、引くと陸になったりします。磯の周りにはささぎるものがないので、日の光が直接照りつけ、温度変化が大きいなど、とてもきびしい環境です。そんなところにも、たくさんの生きものが環境にあわせてくらしています。

ウメボシイソギンチャク
岩のすき間もさがしてみましよう。イソギンチャクが見つかるかも。

波がくる岩のかけ

水面にはクラゲが浮いているかもしれません。刺されないように気をつけましよう。

イソスジエビ
岩や海藻のまわり

バフウニ
底の岩や石の裏

ミドリイソギンチャク
岩のわれ目

アンドンクラゲ
水面近く

水底に転がる石をひっくり返してみると、ヒトデやウニなどが見つかります。観察したあとは、ひっくり返した石をもとにもどしておいてください。

マダコ
岩のすき間

ヒサラガイ
岩の表面にくっついている

ホンヤドカリ
浅いところ

マナマコ
底にある石の間や裏

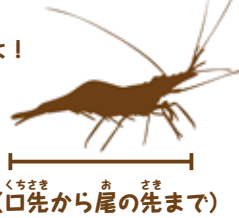
イトマキヒトデ
底の岩や石の裏

潮だまり
潮が引いたあとに、岩などのくぼみに海水が残った場所のことで「タイドプール」ともよばれます。大きさはいろいろですが、水面も静かなので、たくさんの生きものを観察したり、つかまえたりしやすい場所です。

見つけたよ!

飼いやささ ★☆☆
黄色い星が多いほど飼いやさしいよ!

体の大きさ



ホンヤドカリ ★☆☆
大きさは1cmぐらい

触角はまだらもようで、はさみとあしの先が白いのが特徴。いつも引っこす貝殻をさがしています。繁殖期には、オスがメスを持って歩くようですが、潮だまりのあちこちで見られます。



イソスジエビ ★☆☆
大きさは5cmぐらい
潮だまりで見られるエビで、すき通った体に黒のすじと、あしには黄色のしま模様があります。網で追うとげますが、水中に手を入れてじっとしていると、よってくることもあります。



イトマキヒトデ ★☆☆
腕の長さ9cmぐらい
5本の腕が星のように見えます。裏側には「管足」とよばれるあしがたくさんあり、先は吸盤のようになっていて、岩にはりつくことができます。まん中に口があり、腕の先にはそれぞれ目があります。



マダコ ★☆☆
腕から腕先までの長さ50cmぐらい

場所にあわせて体の色や形を変える、海の忍者。「漏斗」という管から水を噴射してすばやく泳ぎ、敵におどろくと、すみをはいてにげます。吸盤の力が強く、貝やカニなどをつかまえて、口に運んで食べます。



ミスクラゲ ★☆☆
かさの直径20cmぐらい

夏によく見られ、水族館でも飼育されています。かさの中の4つの胃などが目に見えるのでヨツメクラゲともよばれています。刺すことはありますが、毒は強くありません。



マナマコ ★☆☆
大きさは20cmぐらい

ウニやヒトデと同じ棘皮動物というなかま。体の色は赤、黒、青など、すみ場所によってちがいます。夏はほとんど活動せず、水温の下がる冬に活発に動きだし、海底のどろにふくまれるプランクトンの死がいなどの有機物を食べます。



ウメボシイソギンチャク ★☆☆
体の直径3cmぐらい

色が真っ赤で、潮が引いてしぼんだときのすがたが梅干そっくりなので、この名がつけました。岩の間にくっつくように集まっています。親は、体の中で幼生を育てて、ある程度大きくなったら口からはき出すという変わった生態をもっています。



アカテガニ

つかまえた!

- つかまえた生きもの：アカテガニ
- 見つけれられる場所：海岸に近い山林
- 見つけれられる季節：夏から秋
- つかまえかた：後ろから甲羅をはさむ



海岸近くの山はだに、いくつも空いた穴があったら、それはアカテガニの巣穴かも。観察場所を決めて、動かずにじっと待ってみよう。穴から、あしや顔をのぞかすようすが見られるかもしれない。



指をはさまれないように気をつけよう。

もりかわら 森や河原で くらすかニ



アカテガニより、少し海に近い陸地にくらしている。



汽水域の水辺の、石の下や石垣のすき間にかくれている。



河口近くのヨシ原にくらす。干潮の間は干潟でも見られる。

つかまえたら どうする? その1

どうやって家につれて帰るの?

乾燥にも比較的強いので、短時間なら、そのままプラケースに入れて持ちかえることができます。オスかメスかは、体やつめの大きさや、腹を見るとわかります。卵をもったメスは、まもなく幼生を海に放つので、持ちかえられないようにしましょう。



短い時間なら、水は入れなくてもだいじょうぶ。

つかまえたら どうする? その2

用意するもの

- ・プラケース
- ・水を入れる容器
- ・砂 (サンゴ砂、大磯砂など)

●水場
脱皮のときなどには水の中に入るので、全身がつかる水場を用意する。水は、くみ置きした淡水で、1週間に1、2度入れかえる。

●砂
1か月に1回くらいあろう。

えさ

落ち葉やミズズなど、何でも食べます。ペットショップで売られているサリガニやヤドカリのえさのほか、にんじんやリンゴなども食べます。

どうやって飼うの?

ふだんは陸で生活するアカテガニですが、少し水がある湿った場所が大好きです。また、脱皮は水中でするので、全身がつかる水場も必要です。ふだんは林の土にほった穴や、家や神社の石垣にかくれていることが多いので、かくれ場所をつくってやることもだいじです。

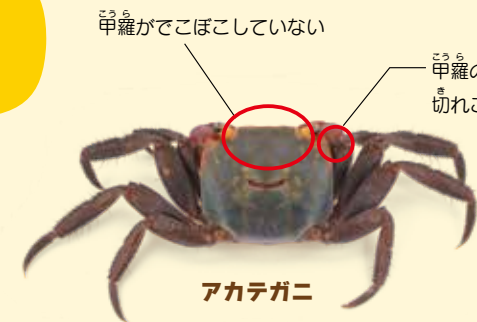


脱走しないように、ふたがしめるケースで飼うこと。とも食いつくことがあるので、1びきのほうが飼いやすい。数ひきで飼う場合は、脱皮したら別のケースに移す。

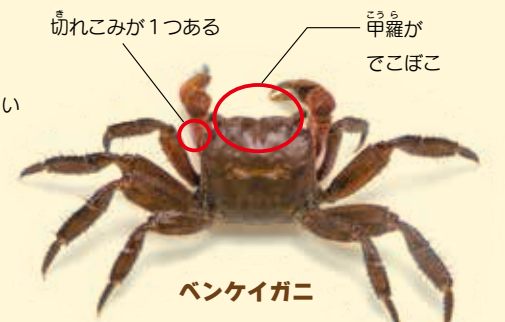
●かくれる場所
ブロックや石、パイプなどでかくれられる場所をつくる。

よく見てみよう!

アカテガニとベンケイガニは、とても似ています。アカテガニは甲羅がすべすべで、甲羅のふちに切れこみはありませんが、ベンケイガニは甲羅がでこぼこで、切れこみがあります。



アカテガニ



ベンケイガニ

つかまえたら どうする? その3

飼いきれなくなったらどうするの?

メスが卵をもったら、幼生を海に放せるように、つかまえた場所ににがしましょう。放す場所は、巣穴やかくれる場所がある山側です。海の近くに放すと、山側の巣穴に帰ろうとして、とちゅうの道路でひかれることもあります。メスは潮の満ち干にあわせて、幼生を放すのによい日と時間をえらんで、海へ向かいます。



ホンヤドカリ つかまえた!

- つかまえた生きもの：ホンヤドカリ ●見つけられる場所：磯の岩場
- 見つけられる季節：1年じゅう ●つかまえかた：手でかんたんにつかまる



いろいろなヤドカリ

磯では、はさみとあしの毛が長いケアシホンヤドカリや、両方のはさみの大きさが同じイソヨコバサミなども見つかるよ。

ケアシホンヤドカリ



イソヨコバサミ



★持ちかえりかた

バケツなどに、数ひきと海水をいっしょに入れて、エアープンプをかける。



どうやって飼うの?

磯でよく見かける小さなヤドカリは、じょうぶな生きものです。えさのやりすぎに注意すれば、長く飼うことができます。

えさ

2〜3日に一度あたえます。魚やイカ、貝、エビなどの魚貝類、ワカメやアオサなどの海藻類、ペットショップで売られているサリガニ用のえさなども食べます。



引っこしが大好きなヤドカリ。新しい貝殻を入れるとよってきて、はさみで貝殻の口の大きさをはかります。中の砂なども、貝殻をくるくる回して器用にそうじします。水そうに、いろいろな大きさの貝殻を入れてみましょう。



ケアシホンヤドカリの引っこし。

つかまったら どうする?

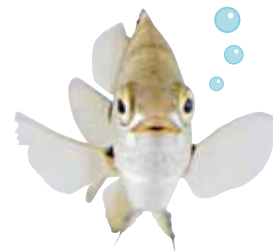
用意するもの

- ・プラケース
- ・フィルターとエアープンプ
- ・人工海水の素
- ・比重計
- ・砂
- ・石や貝殻

石などでかくれる場所をつくってやれば、数ひきいっしょに飼うことができるよ。

●フィルター

●人工海水
よこれがめだつてきたら水かえ(→17ページ)をする。



水そうの準備 どうしたらいいの?



どうやって水そうをつくるの?

- ① 水そうは、ガラス水そうでもプラケースでもかまいません。飼いたい生きもの数や大きさを考えて、水そうの大きさを決めます。
- ② 水そうをあらって、決めた場所に設置したら、流水であらったサンゴ砂などを底から2〜3cmほどの厚さにしきましょう。



底砂を入れてから場所をかえるのは重くてたいへんなので、置く場所を決めてから、底砂を入れる。

③ 近くに海がある場合には、その海水を入れてもいいですが、近くに海がない場合には市販の人工海水を使います。説明書をよく読み、水道水(塩素をぬく必要があれば、中和剤を入れる)をバケツに準備して、人工海水の素を入れ、よくかきまぜます。

④ 水そうに海水を入れおえたら、海水をきれいにたもつためのフィルターなどの器具の置き場所を決め、かくれ場所になるような岩などを入れて配置します。器具をコンセントにつなぎ、動かしましょう。



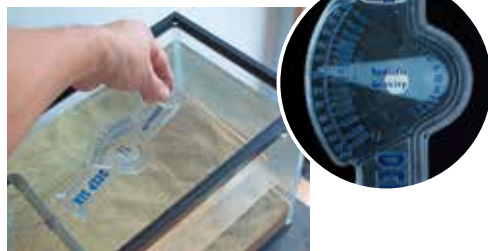
かたい板などを置いて、砂がまい上らないように海水を注ぐ。



水草や岩などは、生きものが好きな環境を考ながらえらぼう。

比重計の使いかた

水そうの海水は、水1リットル当たり35gほどの人工海水の素を入れてつくりま。水の重さを1としたときの海水の重さををはかる「比重計」で、ちゃんと海水がつくれたかを調べます。比重計の説明書にある水温にした水そうの海水を比重計に入れ、水平な場所に置いて目盛りを確認します。一般的な海水の比重は1.020〜1.023ほどです。



比重は、水かえのあとにも調べよう。



ポンプ内の空気をぬくと、自然に水を吸いあげるようになるので、ポンプの先を砂の中に差しこむようにして、よこれを吸いとる。

水がきれいだと気持ちがいいよ!



ペットショップで買った カブトガニ・タツノオトシゴ・ クマノミの飼いかた

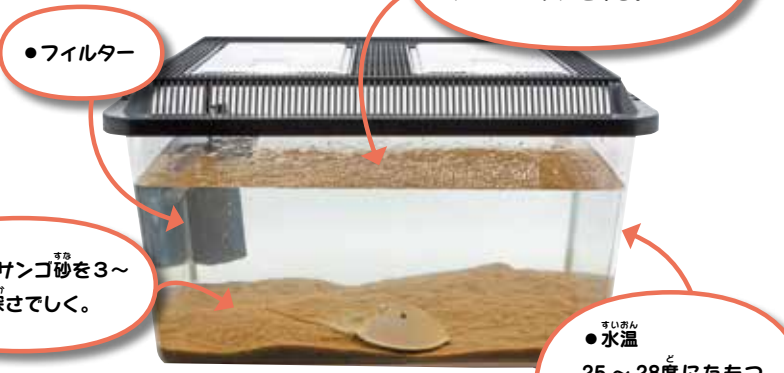


ペットショップでカブトガニを買うときはどうするの？

日本産のカブトガニは、天然記念物に指定されているので飼うことはできません。外国産のカブトガニは、アクアリウム専門店やインターネットの通販で購入することができます。大きく成長するので、飼うのは1~2ひきぐらいにしましょう。

- 用意するもの**
- ・プラケース
 - ・フィルターとエアポンプ
 - ・人工海水の素
 - ・比重計
 - ・ヒーター
 - ・砂 (サンゴ砂)

えさ
貝やイカの切り身を2~3日に一度くらいの割合であたえましょう。



●フィルター

●人工海水
よごれがめだってきたら水かえ (→17ページ) をする。

●底には、サンゴ砂を3~4cmの深さでしく。

●水温
25~28度にたもつため、ヒーター (→41ページ) を入れよう。

どうやって飼うの？

海水の温度を25~28度の間にします。また、フィルターはかならずつけてください。砂にもぐる性質があるので、底には目の細かいサンゴ砂をしきま。



よく見てみよう!

カブトガニは脱皮をして大きくなります。1回の脱皮で約1.3倍の大きさになり、幼生からおとなになるまで15回以上、脱皮をくり返します。



脱皮殻をならべてみると、どんどん大きくなっていることがわかるね。

ペットショップでタツノオトシゴを買うときはどうするの？

タツノオトシゴも、アクアリウム専門店やインターネットで購入できます。えさの「生き餌」もいっしょに購入できるお店をさがしましょう。手に入りにくい生き餌でなく、冷凍のえさで飼育しているお店もあるので、お店の人に聞いてみてください。

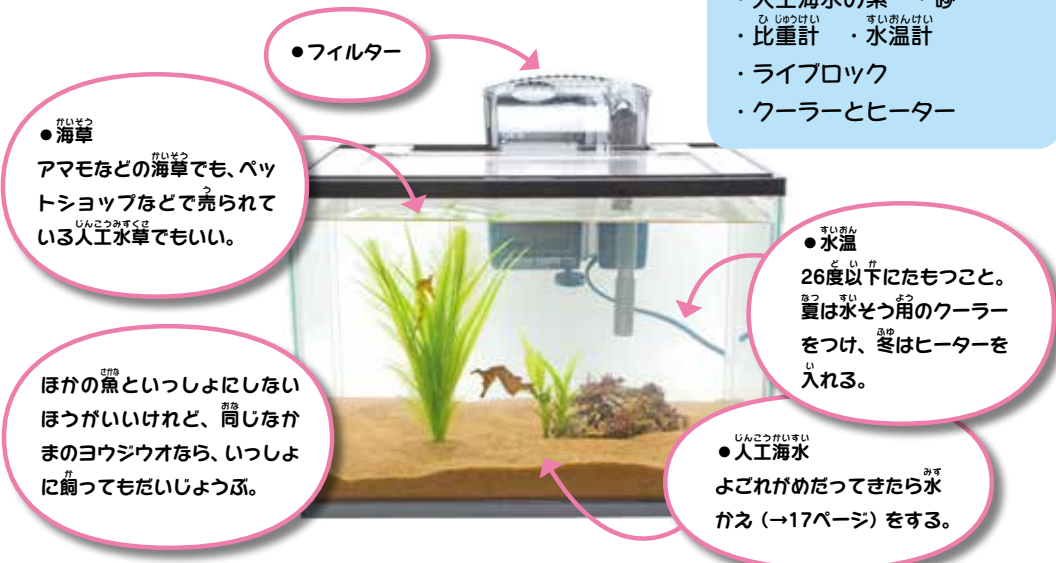
どうやって飼うの？

タツノオトシゴは尾びれがなく、しっぽをものに巻きつけて休むので、海藻などを入れておちつかせましょう。ふわふわと浮くように、ゆっくり泳ぐので、つかれさせないように水流はできるだけ弱くします。

えさ
イサザアミを生きたまま、あたえます。イサザアミは汽水域にくらす、エビに似た甲殻類です。ペットショップなどで「生き餌」として売られていますが、自分でつかまえてくることもできます。

●ヒーター
水温は26度くらいにたもつ必要があるので、ヒーターを入れる。

- 用意するもの**
- ・ガラス水そう
 - ・フィルターとエアポンプ
 - ・人工海水の素
 - ・比重計
 - ・比重計
 - ・水温計
 - ・ライブロック
 - ・ヒーター
 - ・えさ (熱帯魚のえさ)



●フィルター

●海藻
アマモなどの海藻でも、ペットショップなどで売られている人工水草でもいい。

ほかの魚といっしょにしないほうがいけれど、同じなまのヨウジウオなら、いっしょに飼ってもだいじょうぶ。

●水温
26度以下にたもつこと。夏は水そう用のクーラーをつけ、冬はヒーターを入れる。

●人工海水
よごれがめだってきたら水かえ (→17ページ) をする。

カクレクマノミなどの海水魚を買うときはどうするの？

ペットショップやホームセンターなど、海水魚をみついているお店ならどこでも購入できます。魚には相性もあるので、ほかの魚といっしょに飼えるか、水そうの大きさにあわせて何びきまで入れられるかなど、お店の人に相談しましょう。

どうやって飼うの？

ほかの魚といっしょに飼う場合は、かくれる場所をたくさんつくりま。死んだサンゴなどの骨格に小さな生きものなどがすみついた「ライブロック」を入れると、そこにバクテリアなどが海水をきれいにたもつのに役立ちま。



●人工海水
よごれがめだってきたら水かえ (→17ページ) をする。

●フィルター
モーターで動くタイプのものを主に、魚がふえたら、投げこみ式フィルターなども設置するとい。

●投げこみ式フィルター

●水温計

あぶない生きもの

海で「あぶない生きもの」といえば、サメやウミヘビを想像しますが、身近な磯や浜辺にも、たくさんあぶない生きものたちがいます。見た目がはでで美しいものも多いのですが、見つけてもむやみに手を出さないようにして、少しはなれて観察しましょう。ただし、その生きもの習性や危険度がわかっていて、小さいものなら、気をつければ飼うことのできる種類もあります。

危険度 ⚠️⚠️⚠️



ゴンスイ ⚠️⚠️⚠️

大きさ●20cmぐらい
夜行性で、夜に釣りをするとよくかかります。ナマズのようにひげがあって、背びれと胸びれのとげに強い毒をもっています。幼魚は潮だまりで、写真のように群れて泳ぐので、そのすがたは「ゴンスイ玉」とよばれます。

ハオコゼ ⚠️⚠️⚠️

大きさ●10cmぐらい
アマモなどの生える藻場に暮らし、あまり泳ぎまわらず、海底にじっとしています。小さい魚ですが、背びれに毒があって、刺されると1日じゅう痛くてしびれます。



ミノカサゴ ⚠️⚠️⚠️

大きさ●30cmぐらい
優雅で美しいので、よく水族館で飼育されています。背びれと腹びれ、しりびれに強い毒があります。写真のように胸びれを広げて小魚を岩場などに追いつめ、一瞬で吸いこんで食べます。



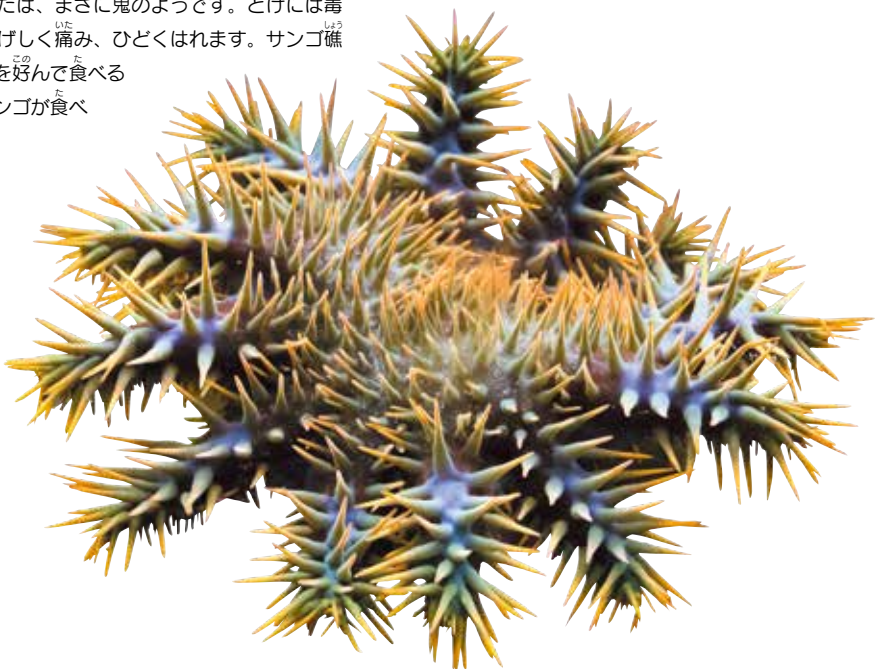
ウツボ ⚠️⚠️⚠️

大きさ●50cmぐらい
口は大きく、するどい歯と強いあごをもっています。夜行性で夜になると泳ぎまわり、するどい嗅覚で魚やエビ、カニなどをさがして食べます。とくにタコが好物です。



オニヒトデ ⚠️⚠️⚠️

中心からうでの先までの長さ●15cmぐらい
30cm以上になることもある大型のヒトデで、3cmほどの長いとげにおおわれたすがたは、まさに鬼のようです。とげには毒があり、刺されるとはげしく痛み、ひどくはれます。サンゴ礁にすんでいて、サンゴを好んで食べるため、ふえすぎるとサンゴが食べつくされてしまいます。



カツオノエボシ ⚠️⚠️⚠️

浮きぶくろの大きさ●10cmぐらい
浮きぶくろの下にのびる触手は、10m以上になることもあります。非常に強い毒をもっているため、「電気クラゲ」とよばれます。海面をただよっていて、風を受けて日本各地の海岸に打ち上げられます。死んでいても、さわるのは危険です。



ガンガゼ ⚠️⚠️⚠️

殻の直径●7cmぐらい
殻の大きさにくらべて、とげがとても長いウニです。毒のあるするどいとげは、刺さりやすく危険です。上側にあるオレンジ色の丸い目のようなものは肛門です。

